

飯田伊那

駒ヶ根工業高校の生徒(右)に教わってドローンを操縦する中学生たち



ドローン通じて工業技術学ぶ

飯島中で駒ヶ根工高生ら特設講座

飯島町飯島中学校で3日、小型無人機ドローンを操縦し、工業技術やものづくりを学ぶ講座があった。町教育委員会が同校で開き、地域住民らが生徒の学習を無料で支援する「いいじま未来塾」の特設講座。駒ヶ根工業高校(駒ヶ根市)機械科の林厚志教諭(51)と同校生徒が講師を務め、ドローンの仕組みを説明、学校を空撮した映像などを見せた。

中学生や保護者ら計15人ほどが参加した。林教諭は「空を飛んで山の向こうを見てみたいと小さい頃から思っていた」と話し、ドローンの仕組みや同校の

人工衛星開発の取り組みを紹介。「技術は手段。技術を使ってどんなことをしたいか夢を描いて」と呼び掛けた。

その後、中学生たちは高校生に教えてもらいながら実際にドローンの操縦もした。参加した飯島中3年の松沢杏珠さん(14)は「技術は手段だと聞き、その先が大事だと思った。工業系の高校に興味があった」と話していた。

未来塾は7月から来年2月までの毎週水曜や定期試験前などに開講。毎回、教員経験者ら町内外の講師5人が教えている。

この記事・写真等は、信濃毎日新聞社の許諾を得て転載しています。

【許諾番号】shin2018-komakou 74s